

環境モニタリング結果の解析について（詳細）

（平成 28 年 1 月 12 日～平成 28 年 1 月 18 日公表分）

平成 28 年 1 月 20 日
原子力規制委員会

『総合モニタリング計画』に基づき、関係機関が実施し、平成 28 年 1 月 12 日～平成 28 年 1 月 18 日に公表されたモニタリングの結果は以下のとおりです。

なお、ここでのモニタリングとは、東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故後に、日本の環境中の放射性物質濃度がどのように変化しているかを継続的に測定しているものです。

I. 福島県全域等の環境（陸域、海域）モニタリング結果

1 空間線量率

- 東京電力株式会社福島第一原子力発電所 20km 圏内のサーベイメータ及びモニタリングポストによる空間線量率は、全体的には減少傾向にあるものの、比較的高い空間線量率で推移しています。（参考資料 1～14 ページ及び下記参考 URL 参照）
- 東京電力株式会社福島第一原子力発電所 20km 圏外のサーベイメータ、モニタリングポストによる空間線量率及び積算線量計による 1 週間の積算値は特別の変化はなく、以前と同様に局所的に $1\mu\text{Sv/h}$ を超える高い空間線量率が観測されている箇所が認められます。（参考資料 15～29 ページ及び下記参考 URL 参照）

○参考 URL

東京電力福島第一、第二原子力発電所周辺及び福島県のモニタリングポストの測定結果

<http://radioactivity.nsr.go.jp/map/ja/>

以上、空間線量率については、全体的に減少傾向にありますが、前回と比較すると特別の変化はありませんでした。

2 海水・海底土の放射性物質濃度

(1) 海水

- 東京電力株式会社福島第一原子力発電所近傍の海水
平成 28 年 1 月 7 日～16 日に採取した海水に含まれる放射性セシウムは、

いずれも検出下限値未満(Cs-134:<1Bq/L、Cs-137:<1Bq/L)でした。(参考資料30～32 ページ参照) ※1

平成27年12月21日、28日に採取した海水に含まれる放射性セシウムの最高値(Cs-137)は、0.14Bq/Lであり(参考資料36 ページ参照)、濃度限度(注1)を下回っていました。 ※2

平成28年1月4日、11日に採取した海水に含まれるH-3は、検出下限値未満(<2Bq/L)でした。(参考資料30～32 ページ参照) ※3

平成27年11月11日、12日に採取した海水に含まれるH-3の最高値は、0.12Bq/Lであり(参考資料37 ページ参照)、濃度限度(注1)を下回っていました。 ※4

平成27年11月2日、12月7日に採取した海水に含まれるSr-90の最高値は、0.021Bq/Lであり(参考資料34、35 ページ参照)、濃度限度(注1)を下回っていました。

平成28年1月7日～16日に採取した海水に含まれる全β(蒸発乾固法)の最高値は、15Bq/L でした(参考資料30～32 ページ参照)

平成27年11月2日、12月7日に採取した海水に含まれる全αは、検出下限値未満(<2Bq/L)でした。(参考資料34、35 ページ参照)

※1:東京電力によるモニタリング(Cs 日常分析)、※2:東京電力によるモニタリング(Cs 詳細分析)、※3:東京電力によるモニタリング、※4:原子力規制委員会によるモニタリング

- 東京電力株式会社福島第一原子力発電所周辺の海水

平成27年12月14日～22日に採取した海水に含まれる放射性セシウムの最高値(Cs-137)は、0.054Bq/L でした。(参考資料36 ページ参照)

平成27年12月2日に採取した海水に含まれるH-3は、検出下限値未満(<0.4Bq/L)でした。(参考資料35 ページ参照) ※1

平成27年11月11日、12日に採取した海水に含まれるH-3の最高値は、0.081Bq/L でした。(参考資料37 ページ参照) ※2

平成27年12月2日に採取した海水に含まれるSr-90は、検出下限値未満(<8mBq/L) でした。(参考資料35 ページ参照)

平成27年12月2日に採取した海水に含まれる全β(蒸発乾固法)は、検出下限値未満(<20Bq/L) でした。(参考資料35 ページ参照)

平成27年12月2日に採取した海水に含まれる全αは、検出下限値未満(<2Bq/L) でした。(参考資料35 ページ参照)

※1:東京電力によるモニタリング、※2:原子力規制委員会によるモニタリング

- 福島県沿岸・沖合の海水

平成27年12月6日～17日に採取した海水に含まれる放射性セシウムの最高値(Cs-137)は、0.026Bq/L でした。(参考資料39 ページ参照)

- 福島県の河口付近沿岸の海水

平成27年12月8日～18日に採取した海水に含まれる放射性セシウムは、検出下限値未満(Cs-134:<1Bq/L、Cs-137:<1Bq/L) でした。(参考資料42 ページ参照)

- 宮城県・福島県・茨城県・千葉県外洋の海水
平成 27 年 10 月 20 日～27 日に採取した海水に含まれる放射性セシウムの最高値 (Cs-137) は、3.7mBq/L でした。(参考資料 45～46 ページ参照)

(2) 海底土

- 東京電力株式会社福島第一原子力発電所近傍の海底土
平成 27 年 11 月 2 日に採取した海底土に含まれる Sr-90 は、検出下限値未満 (<0.8Bq/kg・乾土) でした。(参考資料 48 ページ参照)
- 福島県の河口付近沿岸の海底土
平成 27 年 12 月 8 日～18 日に採取した海底土に含まれる放射性セシウムの最高値 (Cs-137) は、1,400Bq/kg・乾土でした。(参考資料 43 ページ参照)
- 宮城県・福島県・茨城県・千葉県沖の海底土
平成 27 年 10 月 30 日～11 月 14 日に採取した海底土に含まれる放射性セシウムの最高値 (Cs-137) は 130Bq/kg・乾土でした。(参考資料 49 ページ参照)

以上、海水の放射性物質濃度については、全体的に減少傾向にあります。前回と比較すると特別の変化はありませんでした。また、海底土の放射性物質濃度については、特別の変化はありませんでした。

II. 全国のモニタリング結果

1 空間線量率

- 全国の空間線量率については、下記の URL にて測定結果が公表されています。

全国の測定結果

<http://radioactivity.nsr.go.jp/map/ja/>

なお、全国の既設のモニタリングポストの所在地は、下記の URL をご参照ください。

http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/1000/211/0/Location_and_GPS_data_of_monitoring_posts_in_47_prefectures.pdf

空間線量率については、概ね事故以前の水準で推移しており、特別の変化もありませんでした。

2 公共用水域（河川、湖沼・水源地）等の放射性物質濃度

- 栃木県内の公共用水域
平成 27 年 7 月 6 日～9 月 29 日に採取した河川、湖沼・水源地の水質に含まれる放射性セシウムは、いずれも検出下限値未満 (Cs-134:<1Bq/L、Cs-137:<1Bq/L) でした。(参考資料 54、55、60 ページ参照)
平成 27 年 7 月 6 日～9 月 29 日に採取した底質に含まれる放射性セシウ

ムは、ダムの底質で、最高値 (Cs-137) が 900Bq/kg・乾土でした。周辺環境の土壤に含まれる放射性セシウムは、河川の土壤で、最高値 (Cs-137) が 14,000Bq/kg・乾土でした。(参考資料 56～60 ページ参照)

以上、公共用水域（河川、湖沼・水源地）等の放射性物質濃度については、特別の変化はありませんでした。

III. その他のモニタリング結果

1 食品等のモニタリング結果

下記の URL をご参照ください。

食品中の放射性物質への対応について

http://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/shokuhin.html

水産物の放射性物質調査の結果について

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/housyanou/kekka.html>

酒類等の放射能分析結果について

<http://www.nta.go.jp/shiraberu/senmonjoho/sake/anzen/radioactivity.htm>

水道中の放射性物質濃度について

http://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/suidou.html

2 【参考】：東京電力福島第一原子力発電所の港湾内のモニタリング結果

- 東京電力株式会社福島第一原子力発電所港湾内の海水
平成 28 年 1 月 11 日～17 日に採取した海水に含まれる放射性セシウムの最高値 (Cs-137) は、9.4Bq/L でした。
平成 28 年 1 月 11 日～17 日に採取した海水に含まれる全 β （蒸発乾固法）の最高値は、230Bq/L でした。
平成 28 年 1 月 4 日、11 日に採取した海水に含まれる H-3 の最高値は、530Bq/L でした。
平成 27 年 12 月 7 日に採取した海水に含まれる Sr-90 は、310Bq/L でした。
平成 28 年 1 月 11 日～17 日に採取した港湾口付近の海水に含まれる放射性セシウムの最高値 (Cs-137) は、0.87Bq/L でした。
平成 28 年 1 月 11 日～17 日に採取した港湾口付近の海水に含まれる全 β （蒸発乾固法）の最高値は、16Bq/L でした。
平成 28 年 1 月 4 日に採取した港湾口付近の海水に含まれる H-3 は、検出下限値未満 (<2Bq/L) でした。
平成 27 年 12 月 7 日に採取した港湾口付近の海水に含まれる Sr-90 は、0.022mBq/L でした。

○参考 URL

<http://www.tepco.co.jp/decommission/planaction/monitoring/index-j.html>

(注 1)

法令に定める周辺監視区域外の水中の放射性物質の濃度限度

I-131 : 40Bq/L、Cs-134 : 60Bq/L、Cs-137 : 90Bq/L、Sr-90 : 30Bq/L、H-3 : 60,000Bq/L

法令に定める周辺監視区域外の空気中の放射性物質の濃度限度

I-131 : 5Bq/m³、Cs-134 : 20Bq/m³、Cs-137 : 30Bq/m³